

# 登別市史編さんだより

## お知らせ

### 市制施行50周年記念写真パネル展 「写真は語る～登別の昔と今～」について

第14号で開催をお知らせした写真パネル展。  
残念ながら、新型コロナウイルス感染症等の拡大防止の  
ために延期とさせていただきます。

開催日程を決定した際には、改めて市広報紙や市公式ウ  
ェブサイトにてお知らせをさせていただきます。

よろしくお祈りします。



市制施行50周年記念ロゴマーク

## 写真の紹介

### 国外と道外から写真資料をご提供いただきました



瀧の湯(A・ゲンテ撮影、明治41年)

アメリカ合衆国の写真家、アーノルド・ゲンテ(1869～1942)  
は、明治41(1908)年に日本を訪れ、その途次に登別温泉の「瀧  
の湯」(現在の泉源公園付近)を撮影しました。

ゲンテが撮影した写真の多くは、現在、アメリカ合衆国オハイ  
オ州にあるオーバリン大学アレン記念美術館に「アーノルドゲ  
ンテ・コレクション」として収蔵されており、一部はインターネッ  
ト上での閲覧が可能です。今回、コレクションに含まれる左の写  
真を同館から提供いただきました。

同コレクションは、整理途上の写真も多いとのことから、登別  
市に関連するものが新たに発見されるかもしれません。

大正5(1916)年に倶多楽湖を調査し、詳細な報  
告書をまとめた小久保清治北海道帝国大学助教授  
が撮影した登別駅付近の写真です。

登別駅は、昭和10(1935)年に建て替えられたた  
め、それ以前の姿を写すこの写真は、貴重な一枚  
です。



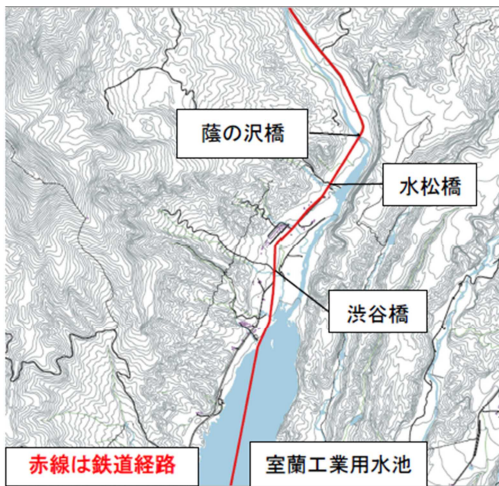
登別停車場前(小久保清治撮影、大正5年)

なお、手前の車両は、登別駅前と登別温泉とを結んだ馬車鉄道の客車です。

#### ※資料に関する情報提供のお願い

市史編さん担当(電話0143(50)6039)では、昔の登別を知る手掛かりとなる資料に  
ついての情報を集めています。

お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりのある方はご連絡ください。



幌別駅前と幌別鉱山（現鉱山町）を結んだ幌別鉱山専用鉄道。

明治40(1907)年11月に開通したこの鉄道は、鉱山主の小田良治が運行を開始し、その後、北海道硫黄(株)が引き継いだ私営鉄道です。

昭和期には、壮瞥町黄溪で採掘した硫黄の運搬が主となり、その後、壮瞥町側の交通事情の向上によって、同鉄道は使用されなくなりました。そのため、レールは、昭和27(1952)年から29年にかけて鉱山町側から順次撤去されました。

レール跡は、現在の道道弁景幌別線と重なる部分が多く、大部分は失われていますが、ふおれすと鉱山裏などでその一部を確認することができます。

鉄道で使用されたレールは、開通当初は馬車鉄道用の軽いものでしたが、昭和2年に蒸気機関車に転換された際により丈夫なものに交換されました。そして、それまで使用していたレールは坑道内で再利用されたといえます。なお、レール幅は、鉱山町に現在も残る同鉄道の車輪から762ミリであったものと推測されます。

今回ご紹介する写真は、昭和27年頃に撮影された3つの橋とレールです。

昭和27年頃撮影	令和2年3月撮影	
		<p>かつて「第二橋」といわれた<sup>かけ</sup>蔭の沢橋です。国立公園の設置運動時に橋の付近の景観は、「幌別<sup>やばけい</sup>耶馬溪」として調査団に紹介されました。</p>
		<p>カムイヌプリ方向（写真では左手）から流れるオンコの沢に架かる水松橋です。</p>
		<p>レール右横の細道は、馬車道路です。洪谷橋の幌別側手前には、交換線が設けられ、対向する鉄道車両のすれ違いが行われました。付近には営林署の苗圃や民家がありました。</p>

※掲載の地図は、各種地図を参考にした幌別鉱山専用鉄道の経路(赤線)を地理院地図に書き加えたものです。